



大森第二中学校

保護者通信

令和2年11月10日
大森第二中学校
校長 成清敏治
TEL 3762-6456

☆2大行事が終わりました

合同体育発表会、合唱コンクールの2大行事が10月、無事に終了しました。合同体育発表会は当日(10月10日)が台風、秋雨前線による影響で中止になり、各学年で日程を調整して行いました。3年生全員リレーだけは雨の中での開催になり、ご迷惑をおかけしましたが、他の競技は天候にも恵まれ、平日の授業の中で開催できました。

合唱コンクールも、本来であればアプリコ大ホールでの開催ですが、今年は本校体育館で、かつ各学年での開催となりました。練習も制約があり、生徒も苦労した状況ではありましたが、全員で協力して当日に臨み、立派な態度で合唱することができました。

学校行事の目標は、(学習指導要領に)「全校又は学年の生徒で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養う」とされています。この2つの行事を通して、大森二中への所属感が増し、笑顔の学校生活が送ればよいと思います。

☆いよいよ3年は進路選択の時期

2大行事を終え、3年生は進路選択へ切り替えの時期です。先週から三者面談も始まり、具体的な進路選択を迫られます。ほぼ全員が高等学校等へ進学する時代です。ただ最近の傾向として、進路選択の幅も多様になってきています。人生という視点で見ると、高等学校等は短い3年間であり、未来は長く、その先に人生のどんな役割を担い、どのような生き方をしていくのかが問われます。

ぜひとも進路選択については、「どの高等学校等へ進学するか」だけでなく、「どんな生き方をしたいか」「どのような職業で社会貢献したいか」も考えていけるような対話をご家庭でお願いしたいと思います。中学校での進路指導は3月で終わりですが、ご家庭での話し合いは長く続いていきます。充実した冬を過ごし、暖かな春を迎えましょう!



☆ちょっとひと休み (家庭教育のアドバイス)

- 中2で起業し、「日本教育の違和感」と闘う大学生 (仁禮採香さん)
- 彼女は経済誌『フォーブス』日本版で、「世界を変える30歳未満の30人」に選ばれた経歴をもつ。現在、慶應義塾大学総合政策学部在籍しつつ、教育事業を行う TimeLeap を経営している。

【仁禮さんのインタビュー】

- 大人たちは「子供だから何もわからない」と思い込んで何も話さなかったり、質問しなかったりするのですが、子供たちはスポンジのようなすごい吸収力があるので、その観察力や彼らの力を信じることを大事にしています。
- もっと「教育の多様性」を打ち出す必要があると考えています。教育が画一的とは、ゴールのバリエーションが少ないことを意味します。
- 起業家のような新しいものや価値観、未来をつくることに向いている子供たちは存在する。サポートを受けながら実践できる教育機関が必要です。
- 先生が完璧でないといけない、親が子供に対して完璧な存在として向き合わないといけないという思い込みは、子供を育むことをしんどくさせているのでは・・・エラーな部分、欠けている部分を出していけるようになれば、問題を解決する仕組みを導入したり、助け合いの心が生まれたりすることもできます。